

がんの早期発見の推進と対応は

町長 県医師会や他自治体の状況を踏まえて対応



奥山勝吉 議員

がん検診の受診状況は

問 肺、胃、大腸がん検診の過去5年間の受診状況は。

健康福祉課長

過去5年間の平均であるが、肺がん検診は受診者数2137人、※要精検者数32人、精検受診率は約70%。胃がん検診は受診者数1931人、要精検者数275人、精検受診率は約77%。大腸がん検診は受診者数2437人、要精検者数142人、精検受診率は約76%である。

※精密検査が必要な人。

人間ドックでの課題は

問 がん発見に大事な項目を、オプションではなく標準項目にするなどの対応は。

病院事務局長

スタッフの通常診療への対応もあり、標準項目にするのは難しいが、日程や時間帯を工夫し、胸部CTのみの検診を実施するなど、受診しやすい検診をつくっていくことも重要と考えている。

若い人たちの検診対応は

問 若い人、特に乳がん検診の環境づくりは。

健康福祉課長

無料クーポン券を交付しているが、受診率が上がらない現状がある。まずは、受診率向上に取組んで行くべきと考えている。

高濃度乳房の乳がん検診の対応は

問 高濃度乳房という体質の人に、マンモグラフィとエコー検査を併用すべきでは。

病院事務局長

町立病院では、検診で乳がんが疑われた方の精密検査で、マンモグラフィとエコー検査を行っている。

胃がんにおけるピロリ菌の検査は

問 町立病院でのピロリ菌の感染検査と除菌の対応は。

病院事務局長

町立病院では、医師が必要と認めた場合のみ、診療で行っている。

子ども達へのがん教育は

問 町の母子手帳交付時の調査では、妊娠前の母親の喫煙率は24・8%である。子どものころから喫煙の問題を教えるべき。子ども達へのがん教育推進の考えは。

教育次長

県の取り組みなどを参考に、がん教育につ



早期発見には検診が大切！

早期発見には、自己管理とともに、町としてのがん撲滅のための総合的な仕組みを。

置賜総合病院では、検査項目にオプションとして取り入れている。今後、考慮していきたい。いて検討していきたい。公益財団法人がん研究振興財団が作成している、がん教育用のパンフレットを活用した意識啓発にも努めていきたい。